

愛知静岡交流圏域活性化計画

計画概要

◆計画期間
平成24年度～平成28年度

◆計画の目標

新東名・東名高速道路との連携を活かし、関連する道路等の整備により、観光施設へのアクセス性・快適性を向上させ、愛知静岡交流圏域への旅行客の満足度をアップするとともに、併せて観光ルートマップの作成等のソフト事業を実施し、愛知静岡交流圏域の観光客入込客数の増加を図り、ハード・ソフト面から愛知・静岡広域地域における観光産業の活性化を図る。

◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①: 愛知静岡交流圏域における入込観光客数(※)の増減率 102.7%

(※)入込観光客=宿泊客+観光レクリエーション利用者(行祭事、イベントを除く)

指標②: 愛知静岡交流圏域における旅行客の満足度 30.0%

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況(中間年度)

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A 基幹事業名	5,224百万円	(都)河和内海線を始め15箇所の道路整備を実施。他機関との事業調整等のため予定よりやや遅れて進捗	43.9%
B 提案事業	0百万円		
C 効果促進事業	11百万円	計画評価及び評価に係る調査を予定通り2回実施	18.4%
合計	5,235百万円		

※事業費は平成26年度末までの実績額

※進捗率(%)は計画の全体事業費に対する平成26年度末までの実績額の割合【事業費ベース】

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況 (別紙1)

・(都)河和内海線、(一)小松原二川停車場線の現道拡幅事業により、走行性及びアクセス性を向上したことで拠点観光客が安心しスムーズに拠点施設へアクセス出来るようになり、観光客数の増加に寄与した。

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①: 愛知静岡交流圏域における入込観光客数の増減率

(愛知静岡交流圏域における入込観光客数の増減率)

$$= (\text{評価時点の年間入込観光客数}) / (\text{H21の年間入込観光客数})$$

当初現況値 H21	100.0% 124,081(千人)	目標値と実績値 に差が出た要因	本指標の基準年が平成21年度であり、東日本大震災の影響を受ける前の水準までは観光客入込客数が回復していない。しかし、事業開始年度の平成24年度を基準とした場合、106.8%と中間目標を上回っており、近年は観光客数が回復傾向にあることが確認された。
中間目標値 H26	102.3% 126,974(千人)		
中間実績値 H26	99.1% 122,952(千人)		

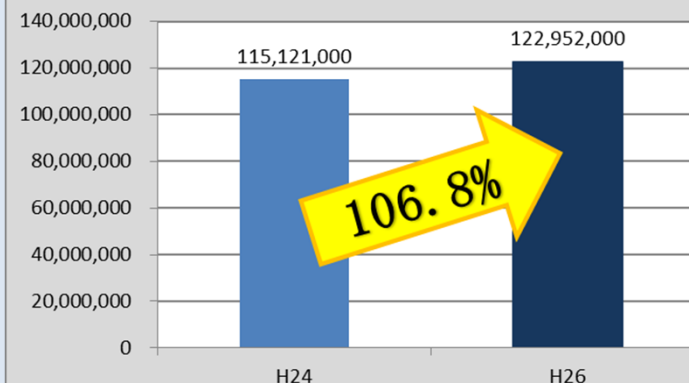
【参考値】

(愛知静岡交流圏域における入込観光客数の増減率)

$$= (\text{H26の年間入込観光客数}) / (\text{H24の年間入込観光客数})$$

※観光庁主導による「観光入込客統計に関する共通基準」の策定に伴い、平成22年度より各都道府県が実施主体となって全国共通基準「観光入込客統計」を実施することとなった。そのため、平成21年と平成26年の入込観光客数を比較することができないため、比較可能な時期の統計値を比較した。

入込観光客数の増減(H24→H26)



指標②: 愛知静岡交流圏域における旅行者の満足度

愛知静岡交流圏域における旅行者の満足度(非常に満足、大変満足の割合)

当初現況値	23.7%	目標値と実績値に差が出た要因	本県として、観光旅行者の満足度を高めるおもてなし「おもてなし愛知」を推進したこと、静岡県も満足度日本一の観光地づくりの取組をしたことの結果が現れた。 また、基幹事業の進捗も、満足度の向上に一役を担ったと考えられる。
中間目標値	28.0%		
中間実績値	36.8%		

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)

・新東名高速道路(豊田東JCT～浜松いなさJCT)の開通に合わせ、静岡県とNEXC中日本と連携して、基幹事業を盛り込んだ広域ルートマップを作成することで、広域的な観光の活性化と本事業の整備効果を広くPRした。

Ⅳ 今後の活性化方策の検討

【基幹事業】

・引き続き整備計画の事業実施期間に基づき継続的に事業進捗を図り、早期の事業完了を行うことで、観光地へのアクセス性向上による観光入込客数の増加に寄与する。

【拠点施設及び広域的特定活動】

・平成28年2月に新東名高速道路(三ヶ日JCT～豊田東JCT)の供用したことで、愛知県と静岡県の相互アクセスが飛躍的に向上し、交流圏域内の更なる活性化が期待される。今後、基幹事業の道路整備や、広域ルートマップの活用による高規格幹線道路を利用した遠方からの観光客を誘致する取り組みによって、活性化を支援していく。

◆フォローアップ

フォローアップの必要性

指標である観光入込客数は社会的な要因等があり目標に達しなかったが、満足度は観光振興計画の推進や個々の基幹事業整備により目標値以上の成果を上げた。新東名高速道供用により交流圏域内の高規格道路アクセスが向上すると共に、基幹事業整備の進捗を継続して行い観光地へのアクセスを向上することで、観光客の増加が見込まれるため、フォローアップの必要はない。

◆中間評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

策定主体にて評価を実施。なお、計画の各要素事業(基幹事業)については、愛知県公共事業評価実施要領に基づき評価を実施。

事後評価の実施時期

平成30年3月

公表の方法

WEBページ掲載
(<http://www.pref.aichi.jp/kensetsu-kikaku/kouiki/kouikiteki.html>)

【基幹事業】

■事業名

都市計画道路 河和内海線

■工事概要

知多半島の南部を東西に横断し、知多半島の骨格の一部を形成する主要幹線道路である。
 県内有数の観光地のため、四季を通して観光客が集まり、休日には慢性的な渋滞が発生している。
 交通環境の改善と、地域の活性化を図ることを目的としたバイパス整備事業である。

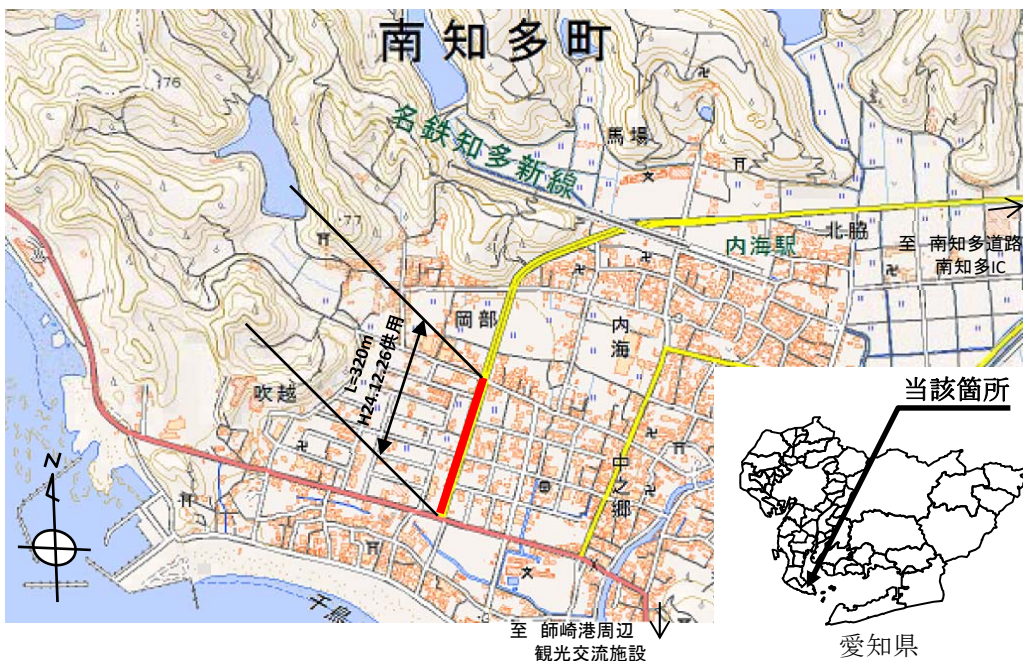
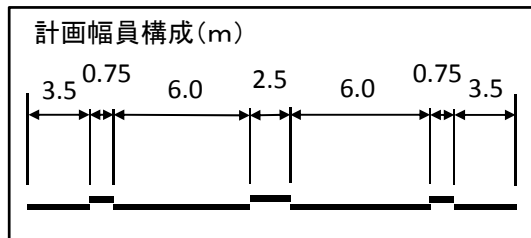
■事業箇所

愛知県知多郡

南知多町

■事業主体

愛知県



■事業効果

- ・ 休日の慢性的な渋滞の解消による、観光施設への安全かつ快適なアクセス性の確保と地域の活性化
- ・ 歩道整備による歩行者、自転車の安全性の向上

拠点施設(師崎港周辺)の観光入込客数の推移

